

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2674000233
法人名	株式会社日本メディケアサポート
事業所名	京都グループホームそよ風
所在地	京都府京都市西京区榎原杉原町6番地 (電話) 075-383-0360

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年11月 6日	評価確定日	平成20年12月 8日

【情報提供票より】(平成20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	19 人	常勤 13人, 非常勤 6人, 常勤換算	15.9 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	18,500 円	
敷 金	有(300000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西京都病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは、住宅街にあり寮を改築し、居宅介護支援や訪問介護、通所介護が併設された総合施設です。開設7年が過ぎ、利用者にとって住み慣れたホームで、その人らしく過ごしていくために、今年度は「共に生きる」という理念を掲げ、職員と利用者が一緒に家庭的に過ごせるように支援しています。また、重度化の対応の指針を明確にし、家族に説明し同意を得て終末期の対応ができるようにと取り組んでいます。日常の楽しみの支援に加え、誕生月には行きたい所や食べたい物などの希望を聞き叶えたり、季節の移り変わりを感じてもらえるように、お花見や大文字の送り火などの行事を大切にしています。そして、毎月の手書きの便りを作成し、利用者の写真を取り入れ状況報告をし、家族の安心にもつながらる取り組みも行っています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題であった家族の思いやケアの向上のために積極的に意見を求める事については、家族対象のアンケートを実施しました。アンケートを基に職員で話し合いサービスの改善に取り組んでいます。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、各フロア毎に会議の中で職員に項目を見て知ってもらい、主体性を持って話し合い、改善に向けて取り組んでいます。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域包括支援センター職員、民生委員、家族、センター長、介護支援専門員、職員などが参加する運営推進会議を2か月に1回開催しています。ホームの活動、職員の状況などを報告を行い、参加者からの要望や助言を聞いています。また、ホームの会議などで話し合いサービスの質の向上に活かしています。また、自治会の参加を呼びかけています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム玄関に意見箱を置いています。来訪時や運営推進会議に家族の参加、ケアプランの更新の際には面談を行い、話しやすい雰囲気作りに努めています。また、家族アンケートを実施し、意見や思いの把握を共有し今後の運営や取組みに活かしています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や老人会に加入しています。職員が自治会の委員をしており、草刈りや新聞回収などに参加したり、行事の案内があり、お祭りのお誘いや小学校のすこやかサロンに参加しています。また、地域のボランティアの来訪があり積極的に交流が出来るように努めています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、毎年事業所の運営理念を職員で話し合い作られています。今年度は、地域の人々が住みなれた家、そして地域で尊敬をもって生活を継続できるように地域密着としての理念「共に生きる」を掲げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関入口に掲示しています。毎朝、朝礼で職員で唱和し、理念を意識付けケアを行っています。また、ケース会議などで話し合う際には、理念に立ち戻り実践できるように取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会に加入しています。職員が町内委員をしており、草刈や新聞回収に参加したり、行事の案内があり、お祭りや小学校のすこやかサロンなどに積極的に参加しています。また、地域のボランティアの来訪があり交流に努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価について、各階フロアごとの会議で項目の内容を把握し、主体性を持って話し合い生活の質の向上のためのケアに取り組んでいます。前回の評価結果を活かし、家族アンケートを実施し、その結果を活かしてサービスの改善に取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員、民生委員、家族、管理者、介護支援専門員、職員などが参加する運営推進会議を、2ヶ月に1回開催しています。ホームでの状況や活動報告を行い、参加者からの要望や助言を聞き、サービスの向上に活かせる有意義な話し合いとなっています。町内会など地域の住人の参加を呼びかけていますが、参加はありません。	○	運営推進会議に町内会などの地域の住人に参加してもらい協力が得られるよう、会議の日程や時間帯等検討する等の取組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	京都市から定期的に介護相談員を受け入れています。メールでの情報交換や問い合わせ、重度化による指針の作成時にアドバイスをもらったり、相談しながらサービスの向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、直接コミュニケーションを取り、ホームでの様子を伝えていきます。毎月、利用者一人ひとりの「そよ風でのひととき」という便りを発行しています。個々の利用者の写真を掲載し、手紙でホームでの様子を伝えていきます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を置いています。来訪時や運営推進会議の参加、ケアプランの更新の際には面談を行い、話しやすい雰囲気作りに努めています。要望や意見は、職員で話し合い共有し対応しています。家族アンケートを実施し、今後の運営や取組みに活かしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のステップアップを図り意向を知るため、法人の取り組みとしての「チャレンジシート」を記入してもらい、職員の意向や希望を取り入れ、離職のないように職場環境に考慮しています。また、職員の交代時には、新しい職員が馴染みの関係が築かれるまで、管理者をはじめ馴染みのある職員がフォローしながら、利用者へダメージのないように配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で共有するテーマを元に勉強会を開催したり、ケース会議や緊急時には、定期的に研修しています。また、新任職員は、研修テーマを決めてホーム内での研修や京都グループホーム協議会での新任研修に参加しています。外部研修の案内は、希望や該当する職員が参加し、報告書の回覧や伝達研修を行っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府認知症グループホーム協議会に参加しています。情報交換や相談をしながらサービスの質の向上に取り組んでいます。また、前年度、近隣のグループホームと行事を行っており、今後も交流を継続できるように考えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、見学や体験利用をしてもらい、利用者や家族から生活状況を聞き、相談しながら、入居前の生活状況を大切に少しずつホームに馴染めるように工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「共に生きる」の理念を基に一緒に生活する中で、同じ目線に立ち、食事の準備から調理や昔の遊びなどを教わっています。コミュニケーションを大切に利用者を理解、尊重し何でも話し合える関係づくりに努めています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に利用者や家族からの情報を得ています。日々のコミュニケーションから意向を聞くことができるよう支援しています。センター方式を使用しながら、ケース会議で話し合い状況の変化があったときには、家族と相談しながら意向の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式をアセスメントとし、利用者や家族の希望や要望を取り入れ、職員全員で話し合い介護計画を作成しています。また、毎月協力医療機関や歯科医からの情報提供があり、その内容もケース会議で話し合い介護計画に反映できるようにしています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回の見直しをしています。利用者の状況の変化があった時には、アセスメントを見直し、ケース会議で話し合った上で新たな計画を作成しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じた通院やデパートでの買い物、利用者の誕生日には、行きたい所やなじみの場所などを聞き個別で出かけています。また、1階のデイサービスのお風呂(機械浴)の利用やレクリエーションに参加しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医療機関にするか、かかりつけ医を継続するか意向を聞いています。協力医療機関からは往診が月に2回あり歯科医や歯科衛生士の訪問が月に1回あります。また、デイサービスの看護師とは、いつでも連絡が取れるようにしています。かかりつけ医を継続している利用者は、医師との連絡帳で報告をもらっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今年度、「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、職員で共有しています。考え方や具体的な手順を家族一人ひとりに説明し同意をもらいました。以前にも、ターミナルを経験したことがあり、できる限り家族や利用者の希望に添えるように支援したいと考えています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ファイルは、各フロア事務所の鍵付きのロッカーに保管しています。言葉使いや対応には、命令口調にならないことや利用者の羞恥心に配慮するなど気を付けています。また、馴染みの関係ができてくると崩れることもあり、その都度職員同士で注意し合っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで利用者の入居前の生活やベース、利用者本位に生活できるよう支援しています。なるべく、昼夜の食事は一緒に取るようにしていますが、個々の意向を聞きながら対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は、利用者と一緒に料理の本を見ながらメニューを決めています。季節がわかるような工夫や準備から味付け、盛り付け、片付けなど一緒に出来ることを楽しみながらしています。また、職員は、利用者と同じものを食べ自然な流れで声かけや食事介助をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後からの入浴が基本となっていますが希望があれば、朝からの入浴やその時の状況、体調、希望に応じた入浴ができるようにしています。また、併設のデイサービスの機械浴や大きなお風呂に入れるような体制も整えています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野が発揮できるように、食事の準備から後片付け、掃除やごみ出しなど、その時の状況に応じての役割を持っています。趣味の俳句を新聞投稿したり、季節の行事では、花見や大文字送り、月見など季節の移り変わりを肌で感じられるような楽しみの支援を行っています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、毎日散歩に出かけています。ベランダでひなたぼっこをしたり近隣の公園や神社、デパートでの買い物など希望にそっての支援をしています。また、誕生日には、利用者一人ひとりに行きたい場所や食べたい物を聞き叶えています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが建物の2階3階にあり、エレベーターは常時電子ロックがかかっています。職員からの要望もあり、解除できないか検討しています。利用者の希望があれば、いつでも階下へ降りれるように支援しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署立会いの元、避難訓練を行っています。夜間想定を主に、デイサービスと合同での訓練や災害時の必要な物の確保などを話し合い訓練をしています。また、自治会とは協力依頼を声かけしたところ、了解の返答を頂いています。	○	自治会をはじめ地域の方の協力を得ることができるよう、消火器やAEDの使い方などの研修などを追加するなど、避難訓練の参加を呼びかけ、ホームを知ってもらったり協力体制作りにつながっていくことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分摂取量は記録しています。食事について管理栄養士に来てもらい内部研修をしてもらったり、献立表を見てもらいアドバイスをもらっています。状況や体調に合わせてキザミ食やミキサー食、一口大などに対応しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エレベーター前や廊下には、利用者同士やひとりでもくつろげるようにソファが置いています。季節の花を生けたり、ドライフラワー、手作り作品を飾ったり、料理の匂い等で生活感がわかり居心地良く過ごせるように工夫しています。また、窓を開け外気の風を感じられるように解放しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、大切にしていた仏壇や写真、ベッド、テーブル、ソファ、冷蔵庫などを持ち込んでもらい、家族と相談しながら居心地よく過ごせるように工夫しています。居室が広く、家族の泊まりにも対応できるようになっています。		